

四明会たより

京都大学農学部四明會 2020年8月発行

ごあいさつ

四明會会長 村上 章
(農学研究科長・農学部長)

会員各位には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。日頃は本会の活動にご支援・ご協力を賜りまして有り難うございます。四明會は学部306名、大学院修士課程309名、博士課程45名の新会員を迎え、会員数は25,325名となりました。

今年はCOVID-19への対策のため、卒業式・修了式を始め、入学関係行事以来すべての公式行事が中止となり、講義についても前期はZoomを用いたオンライン授業が行われています。1回生には入学してから登校の機会がなく、大学に入った実感が無いと思います。私どもも新入生と交歓する機会を未だ得ておらず残念ですが、本学の活動制限のガイドラインにおける対応レベルが可能となった段階で1回生との面談の機会を持ちたいと願っております。

ここで、今年度早々の会員の榮譽をご紹介します。2020年春の褒賞で、杉山淳司教授(生存圏研究所)が木質科学研究功績により紫綬褒章を受章されました。衷心よりお祝い申し上げます。なお、杉山教授は6月1日より農学研究科森林科学専攻樹木細胞学分野に異動されています。

さて、当学部は1923(大正13)年に設立され、2023(令和5)年に創立100周年を迎えます。そこで、「農学部100周年記念事業基金」を設立し、さまざまな事業の実施を計画しています。これらの事業は、農学部の卒業生や縁の深い方々とともに100年の歴史と今後の展望について語り合う機会とするとともに、日本の農学の将来を担う若手研究者たちの国際的飛躍の契機とすることを狙いとしています。こうした事業の実施に加え、本基金は持続的未來の鍵となる農学の発展を担い、環境や食料問題に取り組む研究者を育成するために役立てられるほか、農学部における教育と研究環境等の整備にも活用する予定です。次世代の学生・若手研究者たちが、人類の持続的未來の鍵を握る農学の発展をリードする研究者として、あるいは、環境と食料供給の持続性に農学の専門的知識をもって取り組む職業人として活躍できるよう支援してまいります。なお、具体的な基金の用途は右表のように計画されています。

項目	内容
農学部百年史編纂	百年史の編纂にあたっての取材・制作費
百周年記念事業の実施	記念事業にかかる必要経費
国際研究集会の支援	大学院生・若手研究者を対象とした国際研究集会の開催
教育・研究設備等の充実	農学部・農学研究科における教育・研究設備等の整備
若手研究者の支援	若手研究者の海外派遣費用等の研究経費

一方、農学研究科独自の対応策として、平成30年度から農学部教育研究基金を主要な財源に充て、35歳以下の若手特定教員4名の採用を開始し、教員が出産・育児に携わる期間、教育・研究活動に支障をきたすことなく双方を両立させる職場環境の支援制度も活用されています。

農学部教育研究基金につきましては、名誉教授の先生方を始め、多くの会員からご寄付を頂戴しておりますことに篤く御礼申し上げます。お願いばかりで誠に恐れ入りますが、農学部100周年記念事業基金につきましても、今後のご支援を宜しくお願い申し上げます。



名簿第63号の発行について

四明會名簿は隔年発行となっており今年は発行年に当たっています。

名簿関係の主な収入は名簿売払代と広告料で、支出は名簿印刷・製本費と名簿発送費ですが、近年の名簿購入者、広告掲載社の減少、印刷・製本費、発送費の高騰により第61号以降赤字になっています。

さらに今年は新型コロナウイルスの関係による業績不良の企業も多く、この経済状況で広告掲載をお願いしても応じていただけない企業は前回の半分に届くかどうかで、100～140万円の赤字が見込まれます。来年になれば経済状況も好転しているであろうし、広告掲載に応じていただける企業も前回並みとはならなくても今年よりは多くなるものと期待が持てます。

以上のことを勘案し、常任委員会で検討の結果、今回の名簿発行を1年延期することになりました。会員の皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、ご理解いただきますようお願いいたします。

また、今後の名簿発行について、広告料、名簿代の引き上げ、発行周期の延長(2年を3～5年)等、今後常任委員会で検討してまいります。ご意見がございましたら、メール等で事務局までお寄せください。

同窓会たより

◎農学科(KND)

KNDならびにゆりの木会の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年度のゆりの木会は、新型コロナウイルス感染拡大の情勢を鑑み、誠に残念ながら恒例の新入生歓迎会、および木津農場での田植え会ならびに「早苗饗」を中止させて頂くこととなりました。

昨年の四明会でのご報告以来、複数の人事異動がありました。2020年3月には育種学分野の奥本裕教授が定年退職されました。また同じく3月には栽培システム学分野の森塚直樹助教が高知大学へ、品質設計開発学分野の増田太郎助教が摂南大学へ、植物生産管理学分野の滝澤理仁助教が龍谷大学へ転出されました。一方、2019年8月には植物生産管理学分野に元木航助教が、2020年3月には品質設計開発学分野に Cabanos Cerron 准教授が、同4月には育種学分野に那須田周平教授が着任されました。

末筆ながら会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(田中佑)

◎林学科(クローネ会)

クローネ会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、このたびの新型コロナウイルスに罹患された皆様と、感染拡大により生活に影響を受けている皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

旧林学科関連分野における教員の異動について、定年退職・着任はありませんでしたが、森林利用学分野の大澤晃教授が2019年5月に急逝されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度の学位授与式・卒業式は中止となり、4月からの新年度も入学式は中止となり、対面授業も行わず、オンラインでの講義を進めているところです。非常事態宣言が解除され、対面授業や実習の再開に向けて準備を進めていますが、森林科学科ならではの実習である合宿形式での実習に関しては、屋外での活動は比較的問題が少ないですが、施設での宿泊や食事での感染リスクが高いため、当面は人数を制限して行うなど、「新しい生活様式」に対応したやり方が必要となりそうです。また研究活動に関しては、研究室の利用制限も緩和され、国内の調査地などへの移動制限も緩和していくものと思われませんが、海外の調査地での研究再開には時間がかかりそうです。一日も早くこの事態が終息し、平穏な生活を取り戻せるよう心から願っております。

最後になりましたが、会員の皆様のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(館野隆之輔)

◎農芸化学科・応用生命科学科(専攻)(六成会)

六成会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。本会は旧農林化学科の流れをくむ同窓会で、現在では農学部応用生命科学科(農学研究科応用生命科学専攻)の11研究室(細胞生化学、生体高分子化学、生物調節化学、化学生態学、植物栄養学、エネルギー変換細胞学、発酵生理及び醸造学、制御発酵学、生体機能化学、生物機能制御化学、応用構造生物学)と生命科学研究所の2研究室(分子細胞育種学、植物分子生物学)、応用生命科学専攻協力講座の7研究室(分子生体触媒化学、分子微生物学、森林園遺伝子統御学、森林代謝機能化学、木質バイオマス変換化学、農学研究科寄付講座「産業微生物学」、学際融合教育研究センター「生理化学研究ユニット」)で構成されています。

令和2年度は学部1回生47名、修士1回生54名(留学生3名)、博士1回生10名(留学生5名)を新たに迎えました。またこの1年間に多くの教員の異動がありました。3月末にエネルギー変換細胞学分野の喜多恵子教授、生体機能化学分野の加納健司教授が退職されました。加納先生は引き続き京都大学産官学連携本部特任教授としてご活躍されています。また、制御発酵学分野の奥公秀助教は京都先端科学大学の准教授、応用構造生物学分野の高橋

延行助教は甲子園大学の准教授、森林代謝機能化学分野の鈴木史郎助教は岐阜大学の准教授として転任となりました。一方、エネルギー変換細胞学分野に井上善晴教授、生体機能化学分野に白井理教授、分子細胞育種学分野に伊福健太郎准教授が昇任、森林園遺伝子統御学分野に棟方涼介助教が着任されました。新年度は新型コロナウイルス対応の影響は大きく、講義や実習はオンライン形式で、研究活動は制限下で工夫して何とかしのいでいる状況です。今後も応用生命科学科/専攻の構成員一同が団結して学科・専攻を発展させていく所存ですので、会員の皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

六成会の恒例行事である予餞会は、令和2年2月12日(水)に百周年時計台記念館国際交流ホールにおいて盛大に開催されました。令和元年もソフトボール大会が開催され、春季は植物分子生物学分野が初優勝、秋季は発酵生理および醸造学分野が優勝しました。令和2年度の春季は、原稿を準備している段階では新型コロナウイルス感染予防のため開催することができていません。六成会のもう一つの恒例行事である新入生歓迎会は入学式当日のガイダンス終了後に開催予定でしたが、こちらも中止となりました。六成会の動向や活動の様子はホームページ(<http://www.rikuseikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>)でも紹介しておりますので、是非ご覧ください。今後とも六成会へのご支援を何卒宜しくお願い申し上げます。最後になりましたが、会員の皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

(河内孝之)

◎農林生物学科(南窓会)

南窓会会員の皆様におかれましては、新型コロナと共存する新たな生活様式の中ではございますが、いかがお過ごしでしょうか。

昨年度からの人事異動をご紹介します。4月1日付で植物遺伝学分野の那須田周平先生が農学専攻育種学分野教授にご栄転されました。また同じく4月1日付で、植物病理学分野の海道真典先生が摂南大学農学部応用生物学科植物環境微生物学研究室の准教授に、昆虫生態学分野の土畑重人先生が東京大学大学院総合文化研究科の准教授に転出されました。新たなメンバーとして、公益財団法人発酵研究所寄付講座「糸状菌・環境インターフェース工学」特定准教授として、吉見啓先生が昨年10月1日付けで着任され、協力講座として微生物環境制御学分野の学部大学院教育を分担されています。微生物環境制御学分野の田中千尋先生と竹内祐子先生は、4月1日より地球環境学堂生産環境微生物学論との両任となり、ますますご活躍されています。

卒業生・修了生の学位取得者の紹介をいたします。稲垣辰哉君(昆虫生態学分野)、大槻初音さん(生態情報開発学分野)、幸坂歩さん(植物病理学分野)、田中真史君(昆虫生理学分野)、鳥井孝太郎君(植物生理学分野)が昨年度中に博士号を取得されました。おめでとうございます。

残念なお知らせもございます。2020年2月2日未明に、日本を代表する生態学者、応用昆虫学者である桐谷圭治博士がご逝去されました。昆虫学教室(現、昆虫生態学分野)OBで昭和29年農林生物学科卒でした。総合的害虫管理IPM、総合的生物多様性管理IBMを提唱され、常に研究の最前線に身を置かれ生涯現役を文字通り貫かれました。また、日本のコムギ遺伝学をリードする研究者の一人で実験遺伝学教室(現、植物遺伝学分野)平成3年卒のOBである神戸大学農学研究科植物遺伝学研究室の宅見薫雄教授が、2020年6月4日に長く患われた膵臓の病気のため逝去されました。Aegilops属植物の多様性をコムギに導入する研究、同属のゲノム科学を精力的に推進していました。亡くなる直前まで次の研究展開を考えられるなど、まさに働き盛りでのご逝去でした。お二人のご冥福をお祈りいたします。

新型コロナの先行きはまだまだ見通せませんが、会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を祈念しております。

(日本典秀)

◎地域環境工学科(洛水会)(旧農業工学科、旧農林工学科)

洛水会会員の皆様には益々ご清祥のことと心よりお慶び申し上げます。

今年度の総会は5月23日にWeb会議システムにより開催いたしました。そのため、会員の皆様におかれましては、京都までわざわざご足労いただく必要がなくなり、地球上のどこからでも参加できるようになったことから、卒業以来初めて参加いただいた方が複数おられたことは、講演会と懇親会はキャンセルせざるを得ませんでした。が、せめてもの幸いでありました。この総会でご承認いただき、本年度の洛水会会長を務めることになりました水資源利用工学分野(旧水利工学講座)の藤原正幸でございます。誠心誠意務める所存でございますので、どうぞよろしくお祈り申し上げます。

初めに大変悲しい報告となりますが、農業システム工学分野の清水浩教授が3月9日に急逝されました。その訃報に接したとき文字通り言葉を失いました。清水先生は助手、准教授、教授として20年間の長きにわたり京都大学において研究・教育に多大な貢献をされてきたことは皆さんご存知の通りでございます。衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

さて、昨年度からの教員の異動についてご報告いたします。令和元年7月1日付で農村計画学分野に助教として、Mrittika Basu先生が着任されました。同分野は地球環境学堂の持続的農村開発論分野とのダブルアポイントメント(両任)となっていることから、所属する大学院生・留学生が多く、国際色豊かな研究分野であります。Basu助教も地球環境学堂で博士の学位を取得されています。令和元年10月1日付で水資源利用工学分野の竹内潤一郎助教が准教授に昇任され、令和2年1月1日付で生物センシング工学分野に白神慧一郎助教が、そして令和2年4月1日付で熊本大学から濱武英准教授が水環境工学分野准教授として着任されました。令和2年4月1日現在、教員は総勢22名、大学院生87名、学部生170名となっております。

この原稿を認めているのは新緑から深緑に変わる季節で、緊急事態宣言は既に全国的に解除され、県をまたぐ移動の自粛も解除されましたが、事態がどのように推移していくのか予断を許しません。しばらくはコロナ禍の影響を受けた活動を続けることとなります。一方で、コロナ禍により余儀なく始めた取り組みにもメリットのあることが分かってきましたので、今後は従来の方法にそのメリットを組み入れることにより、コロナ禍以前よりも一段高いレベルでの洛水会の活動を展開できればと考えております。『禍を転じて福と為す』と申しますが、それを実現すべく、幹事の皆様と協力して取り組みたいと考えておりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご多幸とご健康、そして一層のご活躍を心より祈念申し上げます。

(藤原正幸)

◎農林経済学科(洛友会)

洛友会の運営が専攻から離れて2年目を迎えました。ご存知のように財政が極めて悪い状態にありますが、洛友会の活動が持続可能となるよう様々な手立てを講じつつあります。

まず、昨年の四明會たより以降の教職員の異動に関しまして、専攻からの情報に基づきご報告申し上げます。三浦憲氏が本年3月16日付で、国際農村発展論分野助教(若手重点戦略)として着任されました。一方3月31日付で、経営情報会計学分野教授の小田滋晃氏が定年退職され、4月1日からルイ・パストゥール医学研究センターに奉職されています。また3月31日付で、「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論寄付講座の特定准教授横田茂永氏、特定助教川崎昭訓氏が、同寄付講座の終了に伴い退職されました。また同日付で、非常勤研究員戸川律子氏が、また事務補佐員上原美雪氏が退職されました。

次に、洛友会事務局の移転についてご報告いたします。事務局は、4月1日付で百万遍交差点の北東直ぐに位置する(公財)「ルイ・パストゥール医学研究センター」5階の「医・農・食情報環境連携研究室」内に移転しました。(4月13日より5月30日まで事務局は自宅ワークとなりました。)新しい電話番号とメールアドレスは以下の

通りです。

電話:075-741-6065 メールアドレス:rakuyuagri@gmail.com

○令和元年度の活動報告

- 1.「令和元年東京洛友会」は6月4日(火)に開催し、教室の現状についての報告の後、岩崎正典氏(昭和47年卒)による記念講演(演題:「何処に向かうのか世界の業種生産」)を行い、その後懇親会を行いました。参加者は18名でした。
2. 令和元年11月2日(土)農学部総合館W106教室にて「令和元年農学部洛友会総会」を開催し、記念講演として農林水産省大臣官房地方課長の松尾浩則氏(平成元年卒)の講演「食料・農業・農村の現状と課題」を行い、旧演習林ラウンジにて懇親会を行いました。参加者は24名でした。なお、W102教室にて教室のホームカミングデイが同時開催されました。
- 3.「洛友会だより」第5号が12月に発行されました。

○令和2年度の活動計画

- 1.【令和2年度の総会・記念講演会及び懇親会】

日時:令和2年11月7日(土)午後3時より(京都大学のホームカミングデイの日)

場所:京都大学北部総合教育研究棟・益川ホール

記念講演会の題目:「生きもの循環論から見るユーラシア比較農法史と農業の未来」

徳永光俊氏(昭和50年卒・前大阪経済大学学長)

懇親会:午後6時より京都大学農学部旧演習林ラウンジにて

なお、専攻のホームカミングデイは開催されません。

コロナ禍による変更、及び「東京洛友会の開催」につきましてはホームページにて掲載いたします。(京大農学部洛友会で検索)

- 2.「洛友会だより」は、第6号を令和3年新春号として2020年12月に発行予定です。

今回からこの「洛友会だより」に会員諸氏の名刺広告を掲載することにしました。会員各位の名刺を頂戴して掲載いたします。(金額は、会員一人につき3,000円)多くの会員諸氏のご協力をお願い申し上げます。また、団体や企業につきましては、一件10,000円程度で広告をお願いしたいと思います。

(鏡島正信)

◎水産学科(緑洋会)

緑洋会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成31年度(令和元年度)応用生物科学専攻の海洋系(旧水産学科)における教員の異動について報告申し上げます。海洋生物機能学分野の豊原治彦准教授、里海生態保全学分野の山下洋教授が定年退職されました。山下洋先生の後任として、同分野の益田玲爾准教授が昇任されました。海洋分子微生物学分野に神川龍馬准教授が着任されました。海洋生物環境学分野の荒井修亮教授が早期退職されました。荒井修亮先生の後任として、私三田村啓理が教授を拝命いたしました。本分野の更なる発展に尽力する所存ですので、どうぞよろしくご支援お願い申し上げます。

今年も緑洋会の主催で資源生物科学科および応用生物科学専攻の海洋系の学生、教職員の懇親会を課題研究(卒論)・修士論文発表会後に開催しました。この懇親会には、里海生態保全学分野ならびに生物資源情報学分野において水産・海洋研究に取り組む学生や教職員も出席しています。また、卒業生として、坂口守彦先生、十亀清氏、細谷和海先生がお越しくださりました。在学生、卒業生そして教職員が集い、楽しく充実した交流の場となりました。

末尾になりましたが、緑洋会会員の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。

(三田村啓理)

◎林産工学科(ユナリグナ)

ユナリグナの会員および会友の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。昨年度夏以降の旧林産工学科関係の人事ですが、樹木細胞学(旧木材構造学)分野教授の高部圭司先生が退職され、後任には杉山淳司先生が着任されました。

そして、生物材料設計学(旧木材工学)分野教授には同分野准教授の仲村匡司先生が昇任され、同分野講師の村田功二先生が准教授に昇任されました。また、小林加代子先生が生物繊維学(旧林産化学)分野助教に着任されました。

さて、同窓会活動に関しましては、学科再編などの影響をうけ、「ユナリグナだより」の発行も止まった状態で、「ユナリグナ」としての活動は停滞気味ですが、一方で、「東京ユナリグナ」、「関西ユナリグナ」がそれぞれ2年に1度交互に開催されることとなり、同窓生の交流の場が定着してきました。

また、私自身が管理者となっております「ユナリグナ」のホームページ(URL: <http://h3news1.kais.kyoto-u.ac.jp/users/yanase/HP/index.html>)につきましても、「東京ユナリグナ」と「関西ユナリグナ」の開催情報などをできる限り更新していきたいと考えておりますので、ぜひご覧ください。

最後になりましたが、会員および会友の皆様からの一層のご支援とご協力をお願いしますとともに、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(築瀬佳之)

◎食品工学科・食品生物科学科(専攻)(中陽会)

中陽会の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

本年は3月24日に学部卒業生・専攻修了生の歓送会が楽友会館において予定されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により開催を自粛いたしました。歓送会は実施できませんでした。例年と同様に食品生物科学科4回生35名、食品生物科学専攻修士課程33名、同博士後期課程2名(本年3月の学位授与者は3名)が新たに巣立って行きました。また、4月7日に同じく楽友会館において予定されておりました中陽会総会、および、新入生の歓迎会は延期し、6月3日にオンライン開催いたしました。新たに食品生物科学科1回生34名、食品生物科学専攻修士課程33名、同博士後期課程2名を迎えることができました。中陽会総会、および、新入生の歓迎会は盛会で、学生と教職員の親睦を深める大変よい機会となりました。特に、若い感性と活力をもつ新しい会員が加わることは、中陽会の伝統を更に発展させる上で、大きな喜びであります。また、昨年9月には博士後期課程1名(昨年4月から本年2月の学位授与者は2名)と、農学特別コース修士課程の留学生1名が修了し、同年10月には博士後期課程に1名が進学、1名が編入学しております。

教職員の異動もこの一年間で複数ございました。まず、令和2年3月31日付けで農産製造学分野教授・谷史人先生の食品化学分野兼任が終了となりました。また、令和2年1月1日付けで食品生理機能学分野特定助教として金子賢太郎先生が着任されました。4月1日付けで食品化学分野助教の榊田哲哉先生が、農産製造学分野助教に配置換えとなりました。さらに、昨年8月31日付けで花木瑞穂 技術職員が辞職し、同年9月1日付けで後任として埴圭介 技術職員が着任いたしました。さらに、新たな教育・研究体制となり、更なる発展に日々努力しているところであります。

産学官でご活躍の会員の方々と情報・親睦を深める組織としての中陽会を益々発展させるため、今後も会員皆様の格別なるご支援とご協力、そしてご指導を賜りますよう、何卒よろしく願いいたします。末筆になりましたが、皆様の益々のご健勝とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

(塚野千尋)

◎畜産学科(はくび会)

はくび会、かすみ会、カトレア会の皆様におかれましては、ますますご活躍のこととお喜び申し上げます。応用動物系の5分野(動物遺伝育種学分野、生殖生物学分野、動物栄養科学分野、生体機構学分野および畜産資源学分野)については、昨年度から今年度にかけて教員の退職や異動はなく、引き続き研究・教育に当たっております。以下は本年度はくび会副会長の石橋真和君(生殖生物学分野・修士2回生)からの活動報告です。

昨年度の活動ですが、令和2年初め頃から猛威を振った新型

コロナウイルス感染の拡大防止のため、卒業・修了式を含め行事は軒並み中止となり、例年3月に開催しているはくび会総会も中止となりました。これに伴い、応用動物系5分野の卒業生・修了生のための送別会も見送る運びとなりました。また、残念なことに、5月には大学でも活動自粛要請がなされ、農学部グラウンドも閉鎖されたため、ソフトボール大会の開催もやむなく中止となりました。毎年熱い分野対抗戦が見られず残念です。大会連覇中の生体機構チームを打倒すべく、どの研究室も作戦を練り、一致団結していたところありますが、次回に持ち越しとなり、大変悔しい限りです。私も今年こそは優勝するぞと思っていましたが、この思いは後輩たちに託しました。うれしいニュースとしては、今年もはくび会の畑は順調です。このようなご時世ではありますが、畑は大事に管理しております。農作業経験のある新入生がとてもやる気になってくれて、夏野菜カレーに向けてしっかり管理してくれています。今年はマルチも張ってたくさんの種類を植え付け、曜日ごとに管理してくれる人を決めたので収穫がとても楽しみです。この状況が早くよくなって、応用動物系みんなで親睦を深め、楽しむことができるようになればいいなと願っているところです。

はくび会の活動以外でも、新型コロナウイルス問題の影響は大きく、畜産資源学分野の廣岡教授を大会会長として3月末に京都大学で開催予定であった日本畜産学会第127回大会も中止となりました。2000年の第97回大会以来20年ぶりの京都開催であっただけに残念な結果となりました。本年10月3-4日には、益川ホールを主会場にして関西畜産学会京都大会を開催する予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況に配慮しつつ、どのような形で開催が可能であるか模索しているところです。

応用動物系5分野は農学部総合館北東部の2階から4階にかけて居を構えております。お近くにお越しの際は、お気軽にお立ち寄りください。

(谷口幸雄)

◎熱帯農学専攻(熱田会)

熱田会のみなさまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

今年は大学もコロナで大変な騒ぎです。高齢者に特に深刻な影響とか。病気はたいいそうですが、みなさまも高齢者。十分にご自愛ください。

きょうも雨降り。よく降ります。職場に来るとき、きょうは緑がきれいだなと思えました。この四明会たよりには季節ネタあまり書かないのですけれど、だって書くのはいつも六月ですから、毎年同じ季節の挨拶では陳腐ですから。でも今年は少し。

緑がきれいなので、山登りは低山が好きでした。沢登りを好みました。この季節、雨の沢登りはいつもびしょびしょで大変だったはずですが、山の緑がきれいに見えて、そのことは大好きでした。本当にきれいで、いいこともあったというより、緑がきれいだったことくらいしか思い出さないですね。

今日は雨の休日に職場に来て、論文の査読などやっています。かすかに雨音がして、静か。誰もいません。コロナですから。遠くから馬の足音。日ごろ慣れないオンライン会議とかして、いろいろ考えて方針を決めて、そしたら状況が変わってまた会議をして、今度はあらかじめいくつものパターンを検討し、そういう無駄なことをやっている(失礼)間に、若い先生方はいまのうちにと論文を書き進めておられるでしょう。論文査読の依頼がたくさん来ます。研究のアウトプットは進んでいるようです。そこだけみれば、それはそれでまたいいことなのだと思います。私、ますます忙しいんですけど。

外国にも行けません。すべてキャンセルになりました。調査もワークショップも。これ、いつまで続くのでしょうか。熱帯農学できないじゃん。

それもまたいいことなのかもしれませんね。いまできることをやりましょう。いずれ、よかったことしか思い出せない日が来るでしょう。

会員のみなさまのますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。(ひ)

(樋口浩和)

四明會活動報告

京大農学部卒業50周年記念同期生会（昭和44年3月卒業・昭和46年3月修了）

はじめに

令和元年(2019)11月1日(金)に四明會の卒業50周年記念同期生会が開催された。本年は特別企画として前日の10月31日(木)に木津農場の見学会も行われた。

これに先立ち、四明會事務局から連絡があり学科ごとに世話人が選ばれて、世話人会が開かれた。世話人は矢澤進氏、菅井征男氏、關谷次郎氏、米田勢司氏、藤田清臣氏と眞山眞理であった。事務局より同期生会の式次第内容と役割分担等の説明を受け、各役割を決定した結果「四明会たより」に同期生会の報告を眞山が引き受けることになった。

I. 50周年同期生会

第1部 式典:10:30~11:00 京都大学旧演習林事務所ラウンジで開催。

四明會事務局長 沖田義孝様から開会の挨拶があり、50周年同期会は昭和52年(1977)に始まり今回は43回目であること、昭和44年卒業生・46年修了生270名のうち、物故者40名、案内状送付193名、参加者は34名であることが報告された。続いて、世話人を代表して矢澤進様(農学)が四明會事務局への謝辞とともに50年ぶりの出会いを楽しみましょうと挨拶された。四明會会長 村上章研究科長が挨拶され、資料に基づき農学部・農学研究科の改組移行後の現状説明がなされた。式典の最後に、事務局から四明會会費納入(コンビニからの納入可能)と名簿購入のお願いがあった。

式典終了後学内見学:11:00~12:00

沖田義孝様のご案内で学内を見学した。卒業時とはすっかり変わった農学部総合館の研究室、講義室、北部構内から本部構内を散策、時計台のある棟(現在は百周年時計台記念館となっている)に入館、歴史展示室で常設展「京都大学の歴史」を見た。展示の中に大学紛争があり、昭和44年(1969)3月の卒業式は挙行されなかったことを思い、今回の農学部卒業50周年同期会は一層感慨深いものとなった。旧教養部も近代的な建物に変わっていたが、在学当時からの正門には懐かしさを感じた。

第2部 懇親会:13:00~16:00 グランドプリンスホテル京都で開催。

開会前に全員で記念撮影。司会と進行は、前半部を關屋次郎様(農芸化学)が、後半部を菅井征男様(林学)が担当された。開会前に物故者40名の方々に黙とうをささげた。開会の辞は、藤田清臣様(林産工学)が述べられた。高度成長期の走りに開設された林産工学科1期生として卒業したが、大学紛争で封鎖対象になり学部卒業式、

大学院入学式がなかったことを思い出す、当時の建物もすっかり建て替わり設備も立派になり喜ばしい、卒後50年とはいえ、人生100年の時代、まだまだ人生を大いに楽しみましょうと話された。続いて遠路つくば市から出席された高辻豊二様(農学)が乾杯の音頭を取られたのち、和やかに食事と懇談が始まった。途中学歌斉唱(藤田様の音頭)、各学科出席者の紹介とそれぞれの体験や思い出、趣味、健康法などが語られ、さらに各同窓会の近況報告もあった。最後に、逍遥の歌、琵琶湖周航歌など(藤田様、田中耕司様(農学)音頭)を斉唱し、奈良県出身西本弘様(農学)の音頭で吉野式万歳三唱をした。閉会の辞は、米田勢司様(水産学)が出席者並びに四明會事務局への謝辞とともに、農学部四明會の益々の発展、余命のある間充実した生き方ができるよう、そして次世代が夢をもてる時代であるよう祈念して1本締めで締めくくられ、閉会となった。

II. 前日行事(木津農場見学)

12:15~17:00(農場の見学は13:30~16:00)、京都大学農学研究科附属農場(木津川市) 出席者18名(うち農場見学のみ、3名)

平成28年4月に高槻農場から移転した木津農場は、総面積24.6ha、圃場面積約11haと広々としてしかも整然としており、立派な3階建て本館に圧倒された。最初に、中崎鉄也教授が「未来を拓く次世代型農業技術の開発と実証」と題して、農場の概要、研究内容等について説明していただき、その後中野龍平准教授や助教の皆様が本館内部、蔬菜、果樹、花卉など最新の施設・設備を案内して下さった。現在、農場は次世代の食と農とエネルギーを創るグリーンエネルギーファームの教育拠点として、全国のあらゆる分野の大学生が利用できる実習等も提供しているとのこと。

帰りには複合環境制御温室で周年栽培されているバラと市場ではほとんど見かけない柿(甘秋)をいただいた。両方とも本当に高品質なものでした。

11月3日にオープンファームを控えられたご多忙の中、ご丁寧に案内いただいた農場の皆様には感謝いたします。ありがとうございました。

おわりに

今回は2日間にわたる行事でしたので、四明會事務局沖田義孝さま、児玉富美子さまには大変お世話になり、ありがとうございました。楽しい時間を過ごすことができ思い出深いものとなりました。

(農林生物学科 眞山眞理)



四列目:本城、杉本、菅井、高辻、寺内、西本
三列目:中村、矢澤、澤村、米田、小倉、大沢、田中、關谷
二列目:小原、内田、佐藤、高木、足立、平岡、濱田、坂口、那波
一列目:小原、大城、小倉、眞山、藤田、世古、細木、矢野

同窓会・クラス会報告

同窓会活動の活性化を目的に、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援する「同窓会・クラス会支援制度」を実施しています。今回は7件の報告が寄せられましたのでご紹介します。みなさまのご報告をお待ちしています。

昭和50年畜産学科入学の同窓会(自称「75会」)^{しちご} 2019/7/13-15

準備期間半年で、初めて北海道で75会を開催しました。

北海道まで本当に来てくれるか心配でしたが、13名の参加があり感激しています。

天気予報はあいにくの雨でしたが、強力な晴れ男がいたおかげで、ほとんど濡れることなく楽しむことができました。

来年の再会を確認し、惜しみながら解散しました。(以上、幹事の森本正隆)

7/13は定山溪のホテルに宿泊して、学生時代や、最近の話題で盛り上がりました。翌日は札幌の赤れんがを見学しながら記念撮影、さらに北大植物園を散策して散会しました。

参加者:足立春彦、石井一弥、一瀬陸子、稲村典昭、高倉一美、高橋邦明、田代龍一、中澤賢悟、西川健太郎、藤中邦則、松山謙二、森本正隆、吉田英策
(畜54 藤中邦則)



京都大学果樹園芸学研究室同窓会 2019/10/13

四明会会員の皆様方には、ますますご健勝でご活躍のこととお慶び申し上げます。

令和元年10月13日に京都タワーホテルにて農学専攻果樹園芸学分野の同窓会を開催しました。1986年から2002年まで長きにわたり教授職を勤められました杉浦明名誉教授と2002年から2015年まで長きにわたり教授職を勤められました米森敬三龍谷大学教授をお招きしました。75名の参加を予定しておりましたが、開催前日に台風19号が関東や東北を直撃し、関東以北の参加者のキャンセルが相次ぎました。台風19号により被災された皆様におかれましては、お見舞い申し上げますとともに少しでも早く元の生活に戻れますことをお祈りしております。

同窓会には、北は秋田県、南は宮崎県まで遠方よりお越しいただき、当日は60名の参加となりました。田尾龍太郎教授による開会の挨拶ののち杉浦明名誉教授によるご挨拶ならびに乾杯で同窓会が始まりました。恩師の先生方からいろいろなお言葉や励ましをいただくとともに、学生当時の話で大変盛り上がり、旧交を温めることが出来ました。2019年度日本農学賞ならびに読売農学賞を受賞されました田尾龍太郎教授のお祝いも兼ねることができました。赤木剛士 岡山大学准教授が当研究室でおこなった研究により文部科学大臣表彰若手科学者賞を受賞されたことや新任の西山総一郎助教を同窓生の皆様に紹介する場も設けることができました。

最後は、米森教授より閉会の挨拶を賜りました。新たな令和の時代を迎え、果樹園芸学分野の発展と同窓生の皆様のますますのご健勝をお祈りし、米森教授の音頭による一本締めで閉会いたしました。

(農平9 山根久代)



昭和40年卒水産学科同窓会 2019/11/12-13

昭和40年水産学科卒業生の会を、令和元年(2019) 11月12日13日に開催し、10名が出席しました。卒業後54年、出席者は77歳から80歳の高齢で、会の直前に1名が体調不良、やむを得ず欠席となりました。

水産同期会は、それぞれの職場を離れ、時間のゆとりが増えてきた2008年、第1回を舞鶴市(一泊)で開催しました。中舞鶴の旧水産学科跡地を見学し、下宿していた舞鶴の街を歩きました。その後、2013年には京都で昼食会を開催し、京大本部構内や北部構内などをまわり、学生時代をなつかしみました。2015年には横浜で昼食会、2017年には下関(一泊)で、開催しています。この間に、3名(曾 博雄、半田智夫、前田勝利)が亡くなりました。

今回は第5回目で三重県志摩市の矢のいかだ荘に宿泊、的矢牡蠣のフルコースを楽しみながら、旧交を温めました。翌日には、伊勢神宮内宮を訪れました。令和になって大嘗祭の後、天皇が訪問されるということで、にぎわっていました。内宮前の食堂で昼食。名物の「てこね寿司」や「伊勢うどん」など、伊勢志摩の食事を味わいました。昼食後、参宮通りの店々を見ながら散策、内宮前からタクシーで近鉄五十鈴川駅に行き、二年後、関東での再会を約し、次回13名の参加を期して、五十鈴川駅で解散しました。



両日とも、秋晴れの温かい日で、養殖筏の浮かぶ的矢湾も、また、内宮の森の緑も美しいでした。

参加者:小西裕一、菅原 庸、寺野 紘、中嶋 毅、中野幸夫、
中山 寛、早崎幸夫、久田洋二、森田明成、和田克彦
写 真:いかだ荘にて

(水40 菅原 庸)

昭和44年卒業水産学科クラス会 2019/11/2

2019年11月2日の京大ホームカミングデーに合わせて卒業50周年クラス会を開催しました。会場は「史跡旧仮皇居聖護院御殿荘」にて午後5時から5年振りの和気あいあいの場を持ちました。これからの人生を有意義に送れるよう健康関連情報の交換や現状の報告など一人5分の時間をオーバーしながら、旧交を温めました。とくに印象に残った話はまだ何人かは俗に言うアルバイトをしている事、趣味としては流石に水産学科だけあって魚釣りに熱中してようやく持ち上げられるほどの鯛を釣果として見せるもの、またこんな書物が面白いと紹介してくれるものなどいろいろと出ました。

写真は上記会場での食事風景です。

参加者:上垣隆宣、小川欣二、柏木哲、鬼頭裕喜、西潔、野村盛厚、松永謙一、水野俊二、山本桂嗣、吉田元、米田勢司

(水44 山本桂嗣)



個人情報保護について

四明會名簿は会員の親睦を目的として作成しています。名簿の利用者・対象者を限定しており、目的外の使用は固く禁じています。皆様の個人情報及び皆様からいただいた情報の管理、取扱いに際し、関連する法令を厳守し、厳重に管理いたします。

不要となった名簿の処分について

新刊が発行され、以前の名簿が不要となった方は、四明會事務局までご返送ください。責任をもって処分いたします。(申し訳ございませんが送料はご負担願います。)

酵素化学研究室同窓会 2019/11/16

酵素化学研究室(食品生物科学専攻)では、ここ数年、同窓会を毎年開催し、今年で第6回となりました。今年(2019年)は11月16日(土)に開催し、30名の卒業生および教員、13名の在籍学生の計43名が参加しました。

本同窓会では毎回、懇親会の前に3名程度の卒業生(または教員)による講演会が行われます。今回は、酒造、酵素製造、食用油脂製造会社で活躍されている3名の卒業生より、学生時代の思い出、現在の仕事内容(研究、人事)についての講演、学生に対する激励のメッセージを頂きました。さらに、今年は研究室創設50周年を記念して、研究室創設時期から現在に至るまでの変遷について、当時の懐かしい写真を持ち込み、パネルディスカッションを行いました。学生もおおいに刺激を受けたようでした。懇親会は、旧演習林事務室のラウンジで行い、卒業生と学生の間の親交も深まり、盛会のうちに散会となりました。2020年は、11月28日(土)を予定しています。

(食品平17 児島 憲二)



参加者:外村辨一郎、菅沼俊彦、青山好男、功刀由紀子、
譽田憲一、富岡伸一、田中晶善、保川清、津村和伸、
森下順光、滝田禎亮、大下勝巳、井沢真吾、橋田泰彦、
児島憲二、他28名。

昭和39年卒(教養A3組)「田園都市A3昼食会」 2019/7/18、2020/1/15

前号の「四明会たより」にて、掲載して頂いた「田園都市A3昼食会」は、その後も定期的に年2回のペースで続けております。

まず2019年7月18日に夏の食事会を行いました。午前11時30分、たまプラーザ東急百貨店5階の中国名菜「陳麻婆豆腐」に集合して会食。その後近くの「砂塚珈琲店」にて懇談というお決まりのコースです。農経11名、農化1名、計12名。この時永久幹事は、四明会の「同窓会・クラス会支援制度」で最初に頂いた記念すべき支援金を有効に活用する方法を考え、今、日本一との評判の高い「乃が美」の「生食パン」を出席者に2斤ずつ購入し、各自家庭に持ち帰り、家族ともども味わっていただくことにしました。写真(左)に写っているのはその生食パンの袋です。ご家族からは「非常に美味しかった」との好評を得ました。四明会に感謝です。



年が変わり、2020年1月15日、新年の食事会を同じコースで行いました。今回から農工の広本君が加わり、農経10名、農化1名、農工1名、計12名の食事会となりました。広本君を通して、農工同期の皆さんの近況をいろいろ聞くことが出来ました。(写真(右)は西本昌道君が早退し、11名となっています)

参加者:北川隆次、藤田元彦、太田裕、高木迪夫、西本昌道、杉江勘治、安田稔、森英男、小田有久、渡部明夫、関谷正人、内田雅晃

2007年、東急田園都市線沿線に住むA3同期生から始まった昼食会ですが、次第に範囲を広げ、現在では田園都沿線のみならず近郊の神奈川県に住むA3同期生の集まりとなり、メンバーは14名になりました。これだけの同期生が集中して住んでいるのはまさに奇跡に近いと考え、永久幹事は今後もこの会の継続に尽力していく所存です。次回開催は2020年7月15日(水)です。

(経39 安田 稔)

同窓会・クラス会支援制度について

同窓会活動の活性化を図るために、学科、専攻、分野ごとに開催する同窓会・クラス会で、一定の条件を満たす場合に経費の一部を支援します。

- 【条 件】 ①10名以上の参加者があり、当該年度の年会費または終身会費の納入者が参加していること
②参加者名簿、開催報告、写真を提出すること(開催報告、写真は四明会たより、ホームページに掲載する)
③学科同窓会が主催するものは対象外

【支 援】 1回につき1万円とし、年1回を限度とする。

- 【手続き】 ①四明会事務局に上記の書類を添えて申請する。
②四明会事務局において審査の後、指定口座に振り込む。

林学科昭和50年入学同窓生の集い 2020/1/11、2020/2/14

卒業以来40年余。同窓の有志で、同期入学の面々に連絡をとって一度集まろうかという話の出たのは約2年前です。名簿再確認の結果、西村優君の他界(数年前)が判明、唯一の女性・岩本さんは不明のままとなりました。

集いは、「京都会」(令和2年1月11日(土)農学部旧演習林本部)と「東京会」(同年2月14日(金)日本記者クラブ)の二部構成で実施。芦生演習林や上賀茂試験地での思い出、恩師とのエピソードのほか、日本の森林と林業について展望と憂慮を熱く語り合う場となりました。また、「東京会」では林野庁長官本郷浩二氏(昭和57年林学科卒)をゲストにお招きしました。



参加者:【無印=両会に参加、★=京都のみ、☆=東京のみ】

★大住克博(54卒)、★小椋純一(54卒)、近藤雅幸(55卒)、★田中幹也(55卒)、★塩谷元宏(54卒)、中川雅裕(54卒)、肱黒直次(54卒)、★松尾雅之(54卒)、森貞和仁(54卒)、☆前田修一(54卒)、☆丸山温(54卒)、☆大矢宣之(54卒)、☆成田喜一(農経54卒、教養で同クラス)

(林54 中川雅裕)



在学生の就職活動支援

平成28(2016)年度より、在学生の就職活動支援のため、農学研究科・農学部との共催で懇談会、セミナー等の各種催しを開催しています。

2019年度は、①6月29日(土)に「インターンシップ&業界・企業研究学内合同セミナー」(理系学生のための就活スタートアップ講座と企業を招いての業界・企業研究セミナー)、②2月1日(土)に「OB/OGを囲んで キャリア・就職懇談会」を開催しました。

②の「OB/OGを囲んで キャリア・就職懇談会」では農学研究科・農学部の卒業生OB・OG(つまり四明会会員)を招いて、業界・企業の特徴、働き方やキャリアについて在学生に語り掛けていただきました。来ていただいたのは農学専攻、森林科学専攻、応用生命科学専攻、応用生物科学専攻、地域環境科学専攻

の卒業生5名で、学部3年生、修士1年生を中心に約50名の学生が参加しました。

今後もこのような催しを続けてまいりますので、会員の皆様にもご協力をお願いいたします。

(事務局)



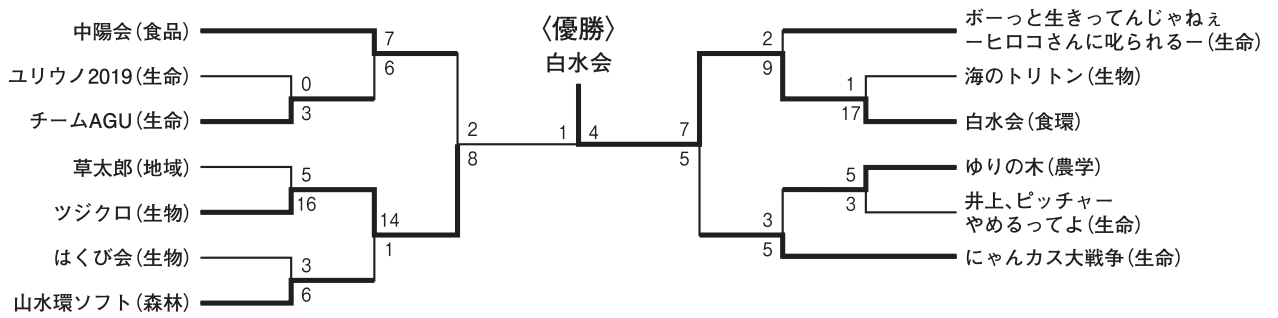
会費納入のお願い

令和2年度(令和2年4月～令和3年3月)四明会年会費1,500円を同封の払込取扱票で納入くださるようお願いいたします。

60歳以上の方でご希望される場合は終身会費(2万円)の制度もございます。どうぞご利用ください。

会費納入方法については同封の「令和2年度四明会会員状況調査と会費納入について」をご覧ください。ご不明の場合は事務局までお問合せください。

2019年度農学部ソフトボール大会結果報告



農学→農学専攻
 生命→応用生命科学専攻
 地域→地域環境科学専攻
 食環→食料・環境経済学科

森林→森林科学専攻
 生物→応用生物科学専攻
 食品→食品生物科学専攻

優勝チームキャプテンからのメッセージ

私たち白水会は、2012年以來実に7年ぶりの優勝を果たすことができました。過去3年間は決勝や準決勝で敗れてしまい、悔しい結果となってしまっていたこともあり、今年は私自身も気合いが入っていました。今年の大会でも緊迫した場面が多く、勝ち上がっていくにつれピンチの場面も多くなっていきましたが、皆があわてずしっかり守りきれたことがチームとしての成長であり優勝できた大きな要因であると思っています。



来年はメンバーも変わり、チームとしてはまた1からのスタートとなりますが、連覇を目指してメンバーが一丸となり頑張りたいと思います。

最後になりましたが、大会を運営して下さった四明會事務局の皆様を始め、この大会に関わる全ての方々に感謝申し上げます。来年もこの四明會大会に出場し、他のチームと素晴らしい試合を繰り広げられることを楽しみにしております。

(寺井 智思 食料・環境経済学科 三回生 (開催時))

ソフトボール大会後記

令和元年度の四明會ソフトボール大会は10/4～10/31の昼休みに農学部グラウンドにて開催されました。悪天候によりグラウンドコンディションの良くない日が多く、大会は長期に亘りましたが、大きな怪我を負う方も居らず無事終了できました。

白熱したトーナメントの結果、決勝戦は「白水会」(食料・環境経済学科)と「ツジクロ」(応用生命科学専攻)の試合となりました。どちらが勝ってもおかしくない緊張感のある試合でしたが、数少ないチャンスをものにした「白水会」が4対1で「ツジクロ」を下し、優勝を飾りました。3位には「中陽会」(食品生物科学専攻)、「にゃんカス大戦争」(応用生命)が入賞しました。両チームとも準決勝にて手に汗握る好試合を演じてくれました。決勝戦後には閉会式が執り行われ、トロフィー、賞状、景品が上位4チームに授与されました。

今年度は堅守・強打のチームが目立ち、守備でピンチを切り抜け、攻撃では好投手に食らいついており、見応えのある試合が多くありました。そのような大会を通じて、研究室や学科・専攻の枠組みを超えた交流を行い、親睦を深められたなら幸いです。来年も多数の参加を得て、更なる四明會の活性化に寄与できる大会になることを望んでおります。

最後になりますが、本大会運営にご協力、ご支援頂きました四明會事務局の皆様へ厚く御礼申し上げます。

(学生世話人 秋田 智宏 応用生命科学専攻 修士二回生 (開催時))

四明會會員数一覽

2020/7/1現在

学科・専攻	卒業・修了年	合計	物故	学外	学内	住所不明	海外
農 学 科	昭和2～平成13	1,765	639	812	11	259	44
林 学 科	昭和2～平成11	1,674	572	735	18	315	34
農 芸 化 学 科	昭和2～平成13	2,966	928	1,496	28	442	72
農 林 生 物 学 科	昭和2～平成17	987	299	473	18	168	29
農 業 工 学 科	昭和2～平成14	2,031	472	1,123	17	361	58
農 林 経 済 学 科	昭和2～平成13	2,617	1,039	916	13	606	43
水 産 学 科	昭和25～平成12	1,119	199	525	9	360	26
林 産 工 学 科	昭和44～平成12	1,005	50	594	31	292	38
食 品 工 学 科	昭和46～平成12	1,246	32	880	20	266	48
畜 産 学 科	昭和51～平成12	647	16	369	13	219	30
熱 帯 農 学 専 攻	昭和58～平成10	90	4	28	5	16	37
生物生産科学科資源生物学コース	平成11～平成19	484	1	218	12	243	10
生物生産科学科生産システム学コース	平成11～平成21	112	1	67	2	40	2
生物機能科学科応用生命科学コース	平成11～平成19	546	4	310	15	208	9
生物機能科学科生物材料科学コース	平成11～平成21	147	1	74	6	65	1
生産環境科学科生物環境科学コース	平成11～平成17	146	0	60	5	78	3
生産環境科学科地域環境創造学コース	平成11～平成17	184	0	89	4	89	2
生産環境科学科生物資源経済学コース	平成11～平成19	168	0	63	2	103	0
資 源 生 物 科 学 科	平成17～	1,503	2	636	186	676	3
応 用 生 命 科 学 科	平成17～	809	1	440	107	244	17
地 域 環 境 工 学 科	平成17～	575	4	309	56	205	1
食 料 ・ 環 境 経 済 学 科	平成17～	494	0	258	23	212	1
森 林 科 学 科	平成17～	895	1	311	107	472	4
食 品 生 物 科 学 科	平成17～	566	1	294	61	206	4
農 学 専 攻	平成11～	219	0	95	7	100	17
森 林 科 学 専 攻	平成10～	424	1	153	28	182	60
応 用 生 命 科 学 専 攻	平成11～	665	2	384	25	205	49
応 用 生 物 科 学 専 攻	平成10～	387	0	154	14	192	27
地 域 環 境 科 学 専 攻	平成9～	400	0	144	15	174	67
生 物 資 源 経 済 学 専 攻	平成9～	228	0	73	15	115	25
食 品 生 物 科 学 専 攻	平成15～	226	2	101	10	84	29
合 計		25,325	4,271	12,184	883	7,197	790

農学科から畜産学科：学部卒業、修士修了、博士修了、特別会員
 熱帯農学専攻、農学専攻から食品生物科学専攻：修士修了、博士修了、特別会員
 生物生産科学科資源生物学コースから食品生物科学科：学部卒業

農学部創立100周年記念事業への資料等提供について

農学部創立100周年記念事業(2023年)にむけて、昔の農学部の校舎や行事の写真等関連の資料を収集しています。お持ちの方で、提供していただける方は、ご一報いただければ幸いです。

四明會 2019年度決算及び令和2年度予算

収 入 の 部

科 目	2019年度決算		令和2年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
会 費	4,650,000	5,806,844	6,000,000
名簿売払代	90,000	65,300	1,200,000
広 告 料	0	0	1,000,000
VISA募集手数料	3,000	0	1,000
VISA提携手数料	300,000	253,960	250,000
預 金 利 息	200	180	200
寄付金及び雑収入	5,000	25,500	5,000
小 計	5,048,200	6,151,784	8,456,200
前年度繰越金	8,937,013	8,937,013	8,516,108
合 計	13,985,213	15,088,797	16,972,308

支 出 の 部

科 目	2019年度決算		令和2年度予算額
	予 算 額	決 算 額	
名簿印刷・製本費	0	0	2,900,000
名簿発送費	153,000	142,800	338,000
会報等印刷・発送費	2,050,000	2,099,644	2,100,000
球技大会費	130,000	127,000	130,000
会 議 費	100,000	187,410	150,000
謝 金	30,000	18,240	20,000
通 信 費	70,000	56,376	60,000
消 耗 品 費	100,000	89,932	100,000
光熱水量及び借料	220,000	296,794	220,000
振込等手数料等	200,000	508,823	500,000
備 品 費	200,000	0	200,000
人 件 費	3,030,000	3,041,170	3,050,000
雑 費	30,000	4,500	30,000
小 計	6,313,000	6,572,689	9,798,000
次年度繰越	7,672,213	8,516,108	7,174,308
合 計	13,985,213	15,088,797	16,972,308

*2019年度予算額・決算額と令和2年度予算額と比較して大きく異なるのは2019年度は名簿を発行しない年に当たるため。
 *令和2年度予算の決定後、名簿の発行延期が決定しました。予算の修正は行っていませんが、名簿関係の収入・支出は無くなります。

四明會令和2年度役員名簿

会 長 村上 章
 副会長 井上 和生
 監 事 日本 典秀
 谷口 幸雄

常任委員

農 学 専 攻 田尾龍太郎 (総務)
 森 林 科 学 専 攻 仲村 匡司
 応用生命科学専攻 森 直樹
 応用生物学専攻 吉田 天士
 地域環境科学専攻 飯田 訓久
 生物資源経済学専攻 浅見 淳之
 食品生物学専攻 井上 和生

委 員

農 学 科 田中 佑
 林 学 科 館野隆之輔
 農 芸 化 学 科 河内 孝之
 農 林 生 物 学 科 日本 典秀
 農 業 工 学 科 藤原 正幸
 農 林 経 済 学 科 鏡島 正信
 水 産 学 科 三田村啓理
 林 産 工 学 科 築瀬 佳之
 食 品 工 学 科 塚野 千尋
 畜 産 学 科 谷口 幸雄
 熱 帯 農 学 専 攻 樋口 浩和

顧 問 坂本 雄美
 尾形 里加
 事 務 局 沖田 義孝
 児玉富美子

四明會会則

(平成30年4月18日 一部改正)

第1章 総 則

- 第1条 本会は、京都大学農学部四明會と称する。
- 第2条 本会は、会員相互の連絡を密にし、親睦をはかることを目的とする。
- 第3条 本会は、その目的を達成するため名簿の発行、その他必要な事業を行う。

第2章 会 員

- 第4条 京都大学農学部（以下「農学部」という。）の卒業生及び京都大学大学院農学研究科（以下「農学研究科」という。）修士課程修了者、または博士後期課程修了者（研究指導認定退学者を含む）を本会の正会員とする。
- 2 農学部・農学研究科の現教員及び旧教官、現職員、学生、並びに農学部・農学研究科に特別な関係を持つもので役員会が承認したものを特別会員とする。
ただし正会員であるものは除く。
- 3 特別会員はこの会則に関して正会員について特に定める事項を除き正会員と同等とする。

第3章 役 員

- 第5条 本会に次の役員をおく。
会長1名 副会長1名 監事2名
常任委員6名以上 委員10名以上
- 第6条 常任委員は農学研究科の各専攻から推薦された教員について役員会で決定する。
- 2 委員は各同窓会単位ごとに正会員または特別会員の内から推薦を受け、役員会において決定する。
- 3 会長が役員を必要とするときは、候補者を推薦し、役員会で決定する。
- 第7条 会長は農学部長をもってあてる。
- 2 副会長は常任委員の内から、監事は委員の内からそれぞれ役員会において互選する。
- 第8条 常任委員及び委員の任期は1年とし4月に交代するものとする。
ただし留任はさまたげない。
- 第9条 会長は本会を代表し会務を統括する。
副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはこれに代わる。
常任委員は会務を分掌し、監事は財務を監査する。
- 第10条 本会に顧問をおくことができる。
なお、会長は必要に応じて顧問を役員会に出席させることができる。

第4章 役 員 会

- 第11条 役員は役員会を組織し本会の運営に関する重要事項を審議決定する。

- 第12条 次の事項は役員会の議決を要する。
(1) 事業計画
(2) 予算及び決算に関する事項
(3) 基本財産に関する事項
(4) 会費に関する事項
(5) 寄付金その他収入に関する事項
(6) 会則の変更
- 第13条 定期役員会は毎年4月に開くものとする。
ただし必要に応じ臨時役員会を開くことができる。
- 第14条 役員はその1/3以上の同意により臨時役員会を請求することができる。
- 第15条 役員会は役員の過半数の出席により成立し議事は出席役員の過半数により決定する。
ただし可否同数の場合は議長が決定する。
- 2 会則の変更は出席役員の2/3以上の賛成により決定する。
- 第16条 役員会は会長が招集し、議長になる。
- 2 役員会の事務は事務局長が処理する。
- 第17条 会長は必要に応じ常任委員会を開く。常任委員会は会長、副会長、常任委員及び事務局長により組織し本会の業務の執行に関し必要な事項を審議決定する。

第5章 会 計

- 第18条 本会の経費は会費及び寄附金その他の収入をあてる。
- 第19条 会費は会員から徴収し、金額はそれぞれ次のとおりとする。
(1) 年会費 正会員、特別会員とも1,500円
(2) 終身会費 60歳以上で希望する者20,000円
(3) 学生会費（入会金及び在学中の会費）
学部生10,000円 大学院生5,000円
- 第20条 本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章 事 務 局

- 第21条 本会の事務局は農学部内におく。
- 第22条 事務局には事務局長1名、事務職員若干名をおく。
- 第23条 事務局長及び事務職員は会長の指揮を受け事務を処理する。

- 附 則 この会則は昭和46年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成11年4月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成18年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成20年5月1日より施行する。
- 附 則 この会則は平成30年4月18日より施行する。

農学部・農学研究科学生概要

1. 学生等数 (令和2年5月1日現在)

(1) 学部

学 部 学 生				合 計
1年次	2年次	3年次	4年次	
309	312	314	367	1,302

(2) 大学院

修 士 課 程			博 士 後 期 課 程				合 計
1年次	2年次	計	1年次	2年次	3年次	計	
327	350	677	60	63	97	220	897

(3) 科目等履修生等

科目等履修生	特別聴講学生	科目等履修生(院)	特別聴講学生(院)	特別研究学生(院)	研究生(院)	研修員
8	3	3	0	5	12	5

2. 入学状況 (令和2年度)

(1) 学 部

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
一般入試	—	475	220	695	204	88	292
特色入試	—	43	37	80	7	7	14
計	300	518	257	775	211	95	306

(2) 大学院

区分	入学定員	志 願 者 数			入 学 者 数		
		男	女	計	男	女	計
修士課程	303	255	143	398	200	109	309
博士後期課程	90	33	17	50	32	13	45

3. 入学試験合格者最高点・最低点 (総点) (令和2年度・一般入試)

満点	最高点	最低点	平均点
1,050	752.71	593.96	638.22

4. 学部卒業者・大学院修了者・博士学位授与者数

(1) 学部卒業者数

区分	2019年度	累計
旧制(昭和23～昭和29.3)	—	3,392
新制(昭和28.3以降)	310	20,886
合計	—	24,278

(2) 大学院修了者数

修 士 課 程	
2019年度	累計
309	10,953

(3) 博士学位授与者数

区分		2019年度	累計
旧制		—	641
新制	博士課程修了者	62	2,418
	論文提出者	17	2,890
合計		79	5,949

5. 学部卒業生・大学院修了者等の産業別就職状況

(1) 学部（令和2年3月卒業生）・大学院（2019年度修了生・研究指導認定退学者）

産 業	区 分	学 部		修士課程		博士後期課程	
		男	女	男	女	男	女
製造業	農・林・漁業						
	鉱業・建設業	1		6			
	食料品・飲料・たばこ			21	20	1	1
	繊維工業			1			
	印刷等						
	化学工業・石油	1	1	23	11	3	1
	鉄鋼業・金属			1			
	機械・電気	1	2	19	13	1	
その他							
サービス業	電力・ガス	1		4	1		
	情報通信業・運輸業	11	5	18	15	1	1
	卸売・小売業	2	2	16	4		
	金融・保険業	6	1	6	4		
	学術研究、専門・技術	8	4	21	9	4	
	宿泊・飲食業			1			
	その他			6	4	1	1
教育	学校教育	1		2	1	15	9
	学習支援業			2	1		2
公務	国家公務	1	1	5	3		
	地方公務	4	1	3	1	2	
	上記以外						
	男子計	37	17	155	87	28	15
	女子計						
	総合計	54		242		43	

6. 国別外国人留学生数

令和2年5月1日現在

国 名	学部学生	修士課程	博士後期課程	研究生等	合計
アフガニスタン			2		2
イラン		1			1
インド		1	1		2
インドネシア		18	8		26
エジプト			2		2
オーストラリア			1		1
カメルーン			1		1
カンボジア		2	2		4
ケニア		2	2		4
ジンバブエ		1			1
スペイン			1		1
タイ		2	3	1	6
ナイジェリア			1		1
ハイチ				1	1
バングラディシュ		1	6		7
ベトナム		2	2		4
マレーシア			2		2
ミャンマー		5	4		9
韓国	6	5	2		13
台湾	1	6	12		19
中国	7	61	37	9	114
米国			4		4
香港	1				1
総 計	15	107	93	11	226

ホームページについて

ホームページではいろいろな活動の告知や報告も掲載しています。随時更新していますので是非ご覧ください。
「四明会」で検索。

農学研究科教員人事

令和元年7月1日				
松居 翔	採用	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	栄養化学分野
				助教
令和元年8月1日				
元木 航	採用	附属農場		
				助教
令和元年9月16日				
竹内 潤一郎	昇任	地域環境科学専攻	地域環境開発工学講座	水資源利用工学分野
				准教授
令和元年10月1日				
吉見 啓	採用	糸状菌・環境インターフェイス工学講座 (寄附)		
河内 護之	採用	糸状菌・環境インターフェイス工学講座 (寄附)		
				特定准教授
				特定助教
令和元年11月1日				
仲村 匡司	昇任	森林科学専攻	生物材料工学講座	生物材料設計学分野
高柳 敦	昇任	森林科学専攻	森林生産学講座	森林生物学分野
				教授
				准教授
令和元年12月1日				
小林 加代子	採用	森林科学専攻	生物材料工学講座	生物繊維学分野
				助教
令和2年1月1日				
白神 慧一郎	採用	地域環境科学専攻	生物生産工学講座	生物センシング工学分野
金子 賢太郎	採用	食品生物科学専攻	食品健康科学講座	食品生理機能学分野
				助教
				特定助教
令和2年3月1日				
CABANOS,Cerrone Salamat	採用	農学専攻	品質科学講座	品質設計開発学分野
村田 功二	昇任	森林科学専攻	生物材料工学講座	生物材料設計学分野
南 直治郎	併任	大学院農学研究科附属牧場長		
				特定准教授
				准教授
令和2年3月16日				
三浦 憲	採用	生物資源経済学専攻	国際農林経済学講座	国際農村発展論分野
				助教
令和2年3月31日				
森塚 直樹	辞職	農学専攻	耕地生態科学講座	
増田 太郎	辞職	農学専攻	品質科学講座	
滝澤 理仁	辞職	附属農場		
奥 公秀	辞職	応用生命科学専攻	応用微生物学講座	
土畑 重人	辞職	応用生物科学専攻	植物保護科学講座	
高部 圭司	定年退職	森林科学専攻	生物材料機能学講座	
喜多 恵子	定年退職	応用生命科学専攻	分子細胞科学講座	
加納 健司	定年退職	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	
豊原 治彦	定年退職	応用生物科学専攻	海洋生物生産学講座	
赤松 美紀	定年退職	地域環境科学専攻	比較農業論講座	
縄田 栄治	定年退職	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	
小田 滋晃	定年退職	生物資源経済学専攻	農企業経営情報学講座	
奥本 裕	定年退職	国際高等教育院		
横田 茂永	任期満了	「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座 (寄附)		
川崎 訓昭	任期満了	「農林中央金庫」次世代を担う農企業戦略論講座 (寄附)		
JHENG, Hwei-Fen	任期満了	「不二製油」大豆ルネサンス講座 (産学共同)		
				特定准教授
				特定助教
				特定助教
令和2年4月1日				
CABANOS,Cerrone Salamat	採用	農学専攻	品質科学講座	品質設計開発学分野
濱 武英	採用	域環境科学専攻	地域環境管理工学講座	水環境工学分野
内藤 大輔	採用	森林科学専攻	森林管理学講座	森林・人間関係学分野
那須田 周平	昇任	農学専攻	作物科学講座	育種学分野
井上 善晴	昇任	応用生命科学専攻	分子細胞科学講座	エネルギー変換細胞学分野
白井 理	昇任	応用生命科学専攻	生物機能化学講座	生体機能化学分野
神川 龍馬	昇任	応用生物科学専攻	海洋微生物学講座	海洋分子微生物学分野
樋口 浩和	昇任	地域環境科学専攻	生産生態科学講座	熱帯農業生態学分野
梶田 哲哉	掛講座等変更	食品生物科学専攻	食品生産工学講座	農産製造学分野
岡田 直紀	配置換	森林科学専攻	森林生産学講座	森林利用学分野
檀浦 正子	配置換	森林科学専攻	森林生産学講座	森林利用学分野
宮下 正弘	配置換	応用生命科学専攻	応用生化学講座	生物調節化学分野
仲村 匡司	併任	国際高等教育院	物理学教室	
寺石 政義	併任	国際高等教育院	生物学教室	
澤山 茂樹	併任	教育研究評議会評議員		
土井 元章	併任	大学院農学研究科附属農場長		
丸山 伸之	併任	自然科学域長		
丸山 伸之	併任	農学資源経済学系長		
三芳 秀人	併任	農芸化学系長		
藤井 義久	併任	生物生産環境学系長		
松浦 健二	併任	応用生物学系長		
令和2年6月1日				
杉山 淳司	配置換	森林科学専攻	生物材料機能学講座	樹木細胞学分野
				教授

京都大学農学部教育研究基金及び京都大学農学研究科附属農場基金の 醸金・事業状況の報告

会員の皆様には昨年度も両基金に多くの醸金を頂き、誠にありがとうございました。農学部教育研究基金は94件の寄付を頂いています。収支は下記の通りです。これまでもお伝えした通り、大学院生の渡航援助を強化しており、在学中に少なくとも一度は海外での研究発表を経験してもらおうと旅費を支援しています。その結果、27名を国際研究集会等に派遣しています。また、2名の留学支援を実施しました。「芦生（向山）維持管理費」は平成24年度に未来農業国際研究財団から寄付頂いた山林の維持のために使用しています。「国際交流室行事用経費」は、本研究科国際交流室が実施しています留学生や外国人研究者のための様々な行事の実施補助に使用しています。その他に平成30年度から35歳以下の若手特定教員4名の採用を開始していますが、その給与にも使用しています。

附属農場基金につきましても34件の寄付を頂きました。心からお礼を申し上げます。平成28年度に移転は終了しましたが、今後、果樹が育ち自己収入が十分に得られるようになるまでには、暫く時間を要するようですし、施設・設備の充実もこれから時間をかけて進めていく必要があります。今後とも、皆様の支援をお願い致します。

本学ならびに本研究科・本学部がおかれている財政状況は厳しさを増すばかりです。そのような状況下で、皆様からご支援いただけるのは誠に心強く、大変ありがたく存じております。引き続き、強力なお力添えを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

令和2年8月

京都大学農学研究科長・農学部長 村上 章

農学部教育研究基金

収支（平成17～令和元年度）

年 度	寄 附 金		研究集会等派遣助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成17	370	10,339,000	—	—	10,339,000	平成17年12月1日、内規・運用規則裁定
平成18	207	4,833,360	2	400,000	14,772,360	
平成19	146	8,850,380	6	1,199,000	22,423,740	
平成20	115	4,493,300	5	920,000	25,997,040	
平成21	162	3,672,060	7	1,128,446	28,540,654	
平成22	96	2,445,100	6	907,000	30,078,754	
平成23	128	7,675,400	18	1,475,200	36,278,954	
平成24	104	62,991,807	14	1,200,000	98,070,761	
平成25	87	3,131,180	8	800,000	100,401,941	
平成26	58	2,007,114	14	1,250,000	101,159,055	
平成27	67	1,049,580	39	2,111,951	100,096,684	
平成28	67	3,559,360	66	3,657,650	99,998,394	
平成29	59	1,043,700	66	2,267,951	98,774,143	
平成30	81	2,200,100	66	3,224,966	97,749,277	
令和元	94	4,402,160	111	25,641,616	76,509,821	
(累計)	1,841	122,693,601	428	46,183,780	76,509,821	

令和元年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考		
支出	国際研究集会等参加助成金	2,300,000	詳細は次ページ参照		
	留学支援助成金	250,000	詳細は次ページ参照		
	芦生研究林（向山）維持管理費	100,000			
	国際交流室行事用経費	414,760	会議費	新留学生ガイダンス・交流室行事等	321,459
			消耗品費	交流室行事用消耗品(筐・折り紙)等	24,921
			レンタル料	餅つき大会時の石臼等	66,880
			損害保険料	餅つき大会時の保険料	1,500
	その他	22,576,856	常勤教員給与	21,328,367	
非常勤教員給与			1,248,489		
計		25,641,616			

国際研究集会等参加助成金内訳

氏名	学年	研究集会名	金額(円)	派遣先
H U A N G Z I C H E N	博士3回生	The 6th IFAC Conference on Sensing, Control and Automation for Agriculture	50,000	オーストラリア
JEWEL, MD. ARIF HOSSAIN	博士2回生	The 16th Asian Regional Conference on Soil Mechanics and Geotechnical Engineering (I6ARC)	50,000	台湾
KOCH, MICHAEL CONRAD	研究員	7th Intl. Symposium on Geotechnical Safety and Risk	50,000	台湾
K O N D O C H I K A	修士2回生	82nd Rural Sociological Society Annual Meeting	100,000	アメリカ合衆国
M E A N S O V A N N A	博士2回生	The 14th Conference on Sustainable Development of Energy, Water and Environment Systems (SDEWES)	100,000	クロアチア
N O P C H A N N P I S E Y	修士2回生	The 14th Conference on Sustainable Development of Energy, Water and Environment Systems (SDEWES)	100,000	クロアチア
NINA GRACEL DIMAANO	博士3回生	The 27th Asian Pacific Weed Science Society Conference	50,000	マレーシア
WANG SHITEPHEN(王仁)	博士1回生	Intl. Doctoral Course on Stable Isotopes in Forest Ecosystem Research (SIFER)	100,000	フランス
井上 貴斗	修士1回生	The 9th World Congress of Herpetology 2020	50,000	ニュージーランド
王 開	博士1回生	10th Intl. Association for Landscape Ecology (IALE) World Congress	100,000	イタリア
崔 麗華	博士1回生	10th Intl. Association for Landscape Ecology (IALE) World Congress	100,000	イタリア
駒田 夏生	博士1回生	56th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC 2019)	100,000	マダガスカル
御手洗 悠紀	博士3回生	Fifth Intl. Convention on Food History and Food Studies	100,000	フランス
国本 悠里	修士1回生	52nd Annual Meeting of the Society for the study of Reproduction	100,000	アメリカ合衆国
山本 琢人	修士1回生	52nd Annual Meeting of the Society for the study of Reproduction	100,000	アメリカ合衆国
四方 大樹	修士2回生	52nd Annual Meeting of the Society for the study of Reproduction	100,000	アメリカ合衆国
鷹巢 篤志	修士2回生	52nd Annual Meeting of the Society for the study of Reproduction	100,000	アメリカ合衆国
山崎 風雅	修士1回生	15th European Conference on Fungal Genetics (ECFG15)	100,000	イタリア
大住 理紗	修士2回生	15th ISTVS European - African Regional Conference	100,000	チェコ
大迫 祐太郎	博士2回生	VI Intl. Symposium on Lychee, Longan and other Sapindaceae Fruits	50,000	ベトナム
谷 垣 伸 治	修士2回生	新型コロナウイルス感染拡大より渡航取止め。ただし、研究科長の判断により助成。	100,000	-
堤 勇斗	修士1回生	BICON 2019	50,000	インド
藤井 夏海	修士2回生	7th Intl. Conference on Earthquake Geotechnical Engineering	100,000	イタリア
藤本 悠太郎	修士2回生	56th Annual Meeting of the Association for Tropical Biology and Conservation (ATBC 2019)	100,000	マダガスカル
姫田 康平	修士2回生	The 39th Midwest Enzyme Chemistry Conference (MECC)	100,000	アメリカ合衆国
牧野 奏佳香	博士3回生	American Geophysical Union Fall Meeting 2019	100,000	アメリカ合衆国
門 間 啓	修士2回生	8th Asia-Pacific NMR Symposium	50,000	シンガポール
		計	2,300,000	

留学助成支援金内訳

氏名	学年	プログラム名	金額(円)	派遣先
河崎 貴哉	学部4回生	部局間交流協定締結校（国立台湾大学生物資源科学農学院）への派遣留学	70,000	
篠田 理沙	学部4回生	部局間交流協定締結校（KU Leuven）への派遣留学	180,000	
		計	250,000	

令和元年度入金者一覧

(五十音順)

相川 哲	尾芝 一郎	瀬尾 充	大川 滋紀	村井 耕二
赤松 美紀	小田 一彦	瀬木 晶子	野淵 正	村上 章
秋津 元輝	片山 保志	高木 宏	萩原 宗作	森下 泰
天野 洋	加納 健司	高田 長武	橋本 涉	森本 茂俊
池田 昇司	薦田 守弘	田形 昌敏	長谷川 英治	諸泉 利嗣
池橋 宏	茅原 正毅	高橋 伊武	林 勇夫	安井 孝
石倉 洋一	菊池 正和	高橋 強	原 完	保川 清
石田 恭平	北島 薫	谷 史人	平井 和	柳井 稔
石田 祐三郎	木村 昭夫	谷 吉樹	廣田 雅司	矢野 秀雄
伊藤 七郎	久馬 一剛	乗京 正弘	福永 拓也	山口 務
井上 樹芳	河野 慎吉	鳥井 清司	伏見 清昭	山田 正
井上 泰男	古賀 里佳枝	中西 一弘	古瀬 浩介	山田 康之
井村 周一	小清水 弘一	永野 由祐	古田 保	山本 喜一
入江 一浩	小谷 明司	中濱 一雄	堀江 大輔	山本 憲二
植田 和光	坂口 守彦	並河 清	堀之内 和美	餘多分 朋子
梅津 憲治	佐々木 義之	鳴澤 成泰	松田 宗純	渡辺 大輔
大棟 正	澤山 茂樹	西澤 健治	松本 和男	
岡松 直勝	柴藤 勝也	西谷 崇	水落 章	
小川 正	角田 豊	西村 一三	宮川 恒	

※複数回入金された方がいますので、件数と入金者数は一致していません。

以上92名

農学研究科附属農場基金

収支（平成25～令和元年度）

年 度	寄 附 金		教育研究活動助成等		翌年度繰越額	備 考
	件数	金額（円）	件数	金額（円）		
平成25	97	3,773,000	0	0	3,773,000	
平成26	66	1,520,960	0	0	5,293,960	
平成27	62	1,176,000	2	2,069,280	4,400,680	
平成28	40	813,400	0	0	5,214,080	
平成29	33	592,900	0	0	5,806,980	
平成30	37	852,600	2	1,882,275	4,777,305	
令和元	34	2,450,000	1	2,420	7,224,885	
（累計）	369	11,178,860	5	3,953,975	7,224,885	

令和元年度執行内訳

事 項		金額（円）	備 考
支出	宅配料	2,420	高額寄附者へのお礼
	計		

令和元年度入金者一覧

（五十音順）

赤松 美紀	木村 千羽	高木 宏	長谷川 英治	宮川 恒
石倉 洋一	久馬 一剛	竹内 直樹	平井 和	邑本 太一
伊藤 七郎	小谷 明司	永野 由祐	平林 征男	森塚 直樹
井上 浩	近藤 始彦	長村 智司	福永 拓也	森本 茂俊
岡本 六郎	齋藤 健	中村 みさ子	伏見 清昭	矢野 秀雄
奥田 恭久	柴藤 勝也	鳴澤 成泰	堀江 大輔	餘多分 朋子
尾芝 一郎	瀬尾 充	西村 一三	松田 宗純	

以上 34 名

第15回 京都大学ホームカミングデイ テーマ 「学(まなぶ)」

令和2年11月7日(土) 京都大学百周年時計台記念館周辺

【メインプログラム】

10:00 ～ 講演会・パネルディスカッション

講 師：出口治明 立命館アジア太平洋大学学長

パネリスト：出口治明学長、京都大学総長

12:00 ～ 京料理を味わう 「下鴨茶寮」による特別弁当、京都大学邦楽サークル「叡風会」による演奏

【当日開催のイベント】

☆音楽会：京都大学交響楽団による演奏、京都大学合唱団OB・OGによる合唱

☆清風荘見学 ☆施設見学：総合博物館、附属図書館、尊攘堂 ☆その他：スタンプラリーなど

※第15回ホームカミングデイは、新型コロナの感染状況等を鑑み7月末を目途に開催の可否を決定する予定です。

※開催とする場合は、講演会（パネルディスカッション含む）、京料理を味わう、音楽会、清風荘見学は、新型コロナ感染対策のために事前申込み・抽選制とし、入場制限などを実施する予定です。開催が決まりましたら、8月中を目途に申し込み方法等の詳細を京都大学HP・京都大学同窓会HP・Facebookに掲載いたします。

※上記のイベント内容は変更になる場合がございます。

京都大学同窓会事務局 電話075-753-2029・5563 E-mail:alumni@www.adm.kyoto-u.ac.jp

◎事務局より

今年は東京オリンピック・パラリンピックをはじめ各種プロスポーツや学生のスポーツ・文化活動の大会の延期・中止が相次ぎ、外出自粛、在宅勤務、営業自粛等々、新型コロナウイルスの影響をまろに受けた年となっています。京大に於いても、卒業式・学位授与式・入学式の中止、前期の授業はオンライン授業と初めてのことだらけ。四明會に於いても4月以降行事が実施できず役員会、常任委員会もメール審議となり、名簿の発行も1年延期に。卒業50周年記念同期生会等、秋以降の行事も中止する場合があります。平穏な日々が一刻も早く戻ることを祈ります。

昭和37（1962）年の農学部

経39安田 稔さんが昭和37(1962)年に撮影された農学部の写真です。現在の写真と見比べてください。



当時) 農学部正門に至るヒマラヤ杉の並木、当時は玉砂利の道でした。
 現在) ヒマラヤ杉はそのままですが、道路は舗装されカリンの木による中央分離帯、歩道柵、自動車入構ゲートが設けられています。

当時) 正門から見た農学部本館です。

現在) 同じ場所から見た農学部総合館です。

農学部総合館は昭和42(1967)年3月に第1期の建物が竣工、以来増築を重ね、最後の第8期工事として昭和63(1988)年1月に着工した東棟が竣工し、その祝賀会が平成元(1989)年4月に行われました。



当時) 農学部本館の玄関です。
 現在) 同じ位置の農学部総合館です。

当時) 本館の内部の廊下です。

現在) 農学部総合館(西棟)の廊下です。講義室が並んでいます。

四明会たより（2020年8月発行）

京都大学農学部四明會

〒606-8502 京都市左京区北白川追分町

Tel/Fax 075-753-6030

メールアドレス shimei@kais.kyoto-u.ac.jp

ホームページ <http://www.shimeikai.kais.kyoto-u.ac.jp/>